

# 令和3年度 法人本部事業計画書

社会福祉法人 青葉福祉会

## 一 基本理念

福祉の原点を「自分が幸せでありたいと思うこと。そして、大切な人に幸せであってほしいと願うこと。」と考え、生涯のどの時点においても自立に向かうための環境を提供する「生涯福祉」を理念とし、「乳幼児から終末まで」つながりを持った事業を展開し、幅広い分野の福祉活動を実施することによって地域福祉の向上に貢献する。

そのために、児童福祉事業では「子どもたちの尊厳と習慣を育む」、生活困窮者等の事業では「生活困窮者等の尊厳と習慣の再構築を支援する」、高齢者福祉事業では「お年寄りの尊厳と習慣をお守りする」を実践理念として、各事業を実施する。

## 二 目標

社会福祉法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上及び事業経営の透明性の確保を図らねばならない。

当会が社会福祉法人の責務を果たし続けていくことは、地域福祉への貢献と同義と捉え、100年続く法人であることを目標とする。そのためには、採用及び事業展開を継続することが必要になる。

## 三 戦略

1. 働きやすい職場作り（続・働き方改革）
2. 時代のニーズに合った広報戦略（ブランディング）
3. 利益を出し、投資ができる経営体制の構築
4. 福祉及び経営のスペシャリストを育成出来る教育システムの構築（人事考課）
5. 新規事業の展開

#### 四 戦術（本年度の取り組み）

以下、担当となる部を中心に一丸となって取り組む。また、各部は情報の共有に努め、常に相互支援体制を整えておくものとする。

##### 1. 中長期計画の策定

WJU とのコンサルティング契約を継続し、更なる経営力強化を図ると共に、2025年までを中期とし、その5年後の2030年までを長期と設定して中長期計画を策定する。

##### 2. 経営企画室の運用

本年度は3チーム構成で活動し、主に戦略1・2・4の強化に取り組む。

- ・人事考課、賃金チーム
- ・採用、教育研修チーム
- ・広報営業チーム

##### 3. 法人全体のスケジュール管理

事業計画を確実に実施していくために、本部を中心とした法人全体の年間スケジュールを作成し、進捗状況を職員間で共有していく。

##### 4. 新規事業展開

- ・既存事業を安定させるための事業改善及び新規事業の展開を検討。（事業支援部協力）
- ・ドミナント拡大のための土地購入を検討し、事業計画を立案。（事業支援部協力）
- ・障がい者及び児童の支援事業の開始。
- ・荒井青葉保育園、八木山あおば保育園の認定こども園移行支援。
- ・生活困窮者及び刑余者等に対する支援事業の開始。

##### 5. 求人及び採用手順の見直し

- ・求人票の見直し及び求人先の拡大
- ・求人方法の見直し（WEB 求人の充実）
- ・定期集団採用試験の実施

##### 6. 週休3日制の導入検討

令和2年度に実施した宮城県介護人材週休3日制モデル事業を実施した経験を踏まえ、多様な働き方のひとつとして導入できるか検討を行う。

##### 7. 外国人介護技能実習生の受け入れ

介護人材不足が深刻になってきている中で、当会としても採用の強化が必須である。採用のできる法人を継続するためには、今後ますます進むであろうダイバーシテ

ィに対応しなければならず、外国人人材の活用も重要になってくる。今回、外国人技能実習生を受け入れることは、このダイバーシティへの一步を踏み出すことになり、その得られたノウハウを今後の人材確保につなげることを目的とする。

- ・令和3年10月頃にベトナム人2人と雇用契約（本年度内定済み）
- ・宮城県技能実習生生活安心支援事業補助金等を活用する

#### 8. 収支の目標値を設定

法人全体のサービス活動収益対サービス活動増減差額率（サービス活動収支差率）を6.8%以上となることを目標とする。

事業所ごとにサービス活動収支差率の目標を設定し、事業計画と連動した予算をもとに事業運営を行う。

#### 9. 法人資金の安定化

- ・本部資金として各事業所から適正額の繰入を実施する。
- ・積立金の適正な運用と管理の整理

#### 10. 各事業所の中長期修繕計画の作成と実施

- ・各事業所ごとに中長期修繕計画を作成し、予算化のための支援を行う。
- ・日常の突発的な修繕に対し予算化出来るように協力する。
- ・電気業者・配管業者・小規模修繕業者・リフォーム業者など、より安価な施工業者を探し経費削減に貢献する。

#### 11. 各事業所の災害用備蓄品の整理と購入支援

#### 12. 各種規程の改正

ガバナンス及びコンプライアンスの徹底を目的とし、各種規程を法人の現状や法令に沿った内容となるよう改正する。

#### 13. 資料のペーパーレス化と管理の効率化

- ・本部で管理している各種資料をデータ化し、検索・管理・閲覧の効率化を図る。当初は現在利用しているサーバー上で運用を開始する。次年度は施設を含めた資料全般のデータ化を進める。
- ・規程類や各種届出様式をクラウド上に保管し、データによる提出を推進することで本部と施設間の事務効率を図る。
- ・グーグルドライブに各本部職員のすべてのアウトプットを集約する手法を確立する

#### 14. 災害対策 BCP の策定

災害対策BCP策定委員会において、地震、洪水等の災害時における事業所毎の災害対策BCPを本年度中に策定する。

事業所毎の災害対策 BCP の完成後、法人全体の災害対策 BCP の策定に着手する。

15. 新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルス対策本部を中心に感染予防対策を実施するとともに、感染者が発生した場合の BCP を事業所毎に策定し、コロナ禍での事業継続を図る。

16. 公益的な取組の充実

・現在各事業で実施している公益的取組を範囲や対象者の拡大などを図ることでさらに充実させる。

・新たな公益的取り組みについて、各事業周辺の地域に合わせた事業を実施することを推進する。既存事業を含めて 1 事業所 1 実践を目標とする。

以上